

## 武漢市のコンビニ市場

大分市武漢事務所 賈 芳

上海市、広州市などの大都市は、都市の発展に伴いコンビニの店舗数が増加してきました。近年、武漢市でも、市民の生活水準が向上してきているため、いつでもどこでもサービスを受けられるコンビニのニーズが高まってきています。

1997年に好来西会社が武漢市で初めてのコンビニを作り、2002年に中百グループが「好邦コンビニ」を、2007年にアメリカのCONMEDグループが武漢市流芳街で「康成コンビニ」をオープンしましたが、好邦以外のコンビニはすぐに閉店してしまいました。

しかしながら、この2、3年の間にコンビニは武漢市で急速に増加してきました。中国連鎖経営協会の統計によれば、哈爾濱（ハルビン）市、長沙市並びに武漢市においてコンビニの出店は著しく、とりわけ武漢市における2015年のコンビニの増加率は32.3%です。現在、武漢市の小売市場において、コンビニは最も勢いのある業態であると考えられています。

2014年に620店舗だった武漢市のコンビニは、2015年には820店舗に増加しました。この中でも、広西省で生まれ、長沙市で成長して、武漢市で強くなったと言われているTODAYのコンビニは、2014年に武漢市場に参入し、2015年には100店舗を超えました。同じく2014年に武漢市場に参入した「7TT」も2015年には30店舗を超え、今年中には100店舗に達する勢いです。その他、中百とローソンが提携して生まれた「中百ローソン」は、今年の5月26日に、最初の3店舗が武昌でオープンしました。今後、中百は傘下の「好邦コンビニ」を「中百ローソン」に改装し、2018年までに、500店舗を武漢市内にオープンする予定です。

今後、多くのコンビニの出店が予定されている武漢市ですが、飽和度（※1）では、武漢市は32位と全国平均を下回っており、

1位の東莞市のわずか1/10です。武漢市商務局によると、2015年の武漢市民1人あたりGDPは1,059,763元ですが、武漢市のコンビニによるライフスタイルの進化は、まだ経済規模に追いついておらず、コンビニビジネスは競争期と成熟期の間にあると言えます。武漢市民の消費意欲が向上していくにつれ、コンビニの売上は増加していくと推測されます。

武漢市のコンビニの増加数は全国で2位ですが、24時間営業を行うコンビニの数は3割に達しておらず、全国で22位です。1位の重慶市では9割が24時間営業となっています。武漢市において、深夜のコンビニに来店するのは、夜食を購入するタクシーの運転手程度であり、昼間の売上に比べ売上は激減します。漢口蘭陵路（武漢市中心部）の「好邦コンビニ」のオーナーが、「夜0時から朝の7時まではほとんど客がいない。24時間営業をすれば電気代の支出や深夜シフトの店員も必要になる」と語るように、コンビニの夜間営業は負担が大きいと、武漢市にあるコンビニはスーパーと同じように7:00～22:00の営業となっています。

しかし、あるコンビニチェーンの幹部によると、チェーン店で24時間営業をしているのは20%から30%ですが、直営店であればほとんどが24時間営業をしているとのこと。武漢市において24時間営業のコンビニが2014年末では100店舗、2015年末では200店舗と増えており、しばらくの間24時間営業のコンビニは増え続けていくものと思われる。

※1 飽和度とは、潜在顧客人数と1人当たりの平均購買額を掛けたものを、店舗営業面積で割ったもの



中百ローソンオープン翌日の様子（団結大通りにある店）



事務所所在ビルの1階にある7TTコンビニ